

市町村名	伊平屋村						
<b>令和4年度(繰越)沖縄離島活性化推進事業費補助金検証シート</b>							
事業名	歴史文化を活用した教育旅行推進事	事業類型	<input checked="" type="checkbox"/> 産業振興 <input type="checkbox"/> 定住促進 <input type="checkbox"/> その他				
担当部課名	企画財政課	現年事業または繰越事業	<input checked="" type="checkbox"/> 現年事業 <input checked="" type="checkbox"/> 繰越事業				
事業実施(予定)年度	令和3年度 ~ 令和5年度						
事業内容	<p>本村の歴史的地点の周辺環境を整備するとともに、高齢者を歴史案内人として育成することで、教育旅行先としての質の向上を実現し、観光振興を図る。併せて、案内人として育成した高齢者の活躍の場を創出することで、本村における歴史学習への貢献・充実を図る。</p>						
先導性等に係る取組	<input type="checkbox"/> 自立性 <input checked="" type="checkbox"/> 政策間連携 <input type="checkbox"/> 離島活性化を担う人材の確保・育成 <input type="checkbox"/> 官民協働 <input type="checkbox"/> 事業推進主体の形成 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 離島地域特有の条件不利性に起因するもの						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(令和6年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
<b>予算額・執行額</b> <b>【単位:千円】</b> <b>(「補助金」+「市町村負担」ベース)</b>		令和3年度	令和3年度(繰越)	令和4年度	令和4年度(繰越)	年度	
	予算の状況	当初予算額	26,885	0	125,100	0	
		増減額	0	0	0	0	
		予算現額	26,885	0	125,100	0	
		前年度から繰越	0	26,885	0	57,208	
		翌年度へ繰越	26,885	0	57,208	0	
		計(A)	0	26,885	67,892	57,208	
	執行済額(B)	0	24,167	67,892	56,057		
	うち補助金充当額	0	19,334	54,313	44,845		
	不用額	0	2,718	0	1,151		
執行率(%) (B/A)	0.0%	89.9%	100.0%	98.0%			
予算の状況の説明	当初見込みよりも低額で契約を締結できたため不用額が生じたものの、繰越した事由に沿って事業を実施し、適切に執行することができた。						
<b>活動目標(指標)及び達成状況</b>	活動目標(指標)		達成状況				
			令和3年度	令和4年度	令和4年度(繰越)	年度	年度
	調査・基本計画	目標	1	-	-		
		実績	1	-	-		
	モニュメント整備	目標	-	-	1		
		実績	-	-	1		
	映像作成	目標	1	-	-		
		実績	1	-	-		
	観光案内人の育成	目標	-	3	-		
		実績	-	3	-		
達成状況説明	新型コロナウイルス感染症の影響により不測の日数を要したため、一部の事業が翌年度に繰越となったが当初の計画通り目標達成することができた。						
<b>成果目標(指標)及び進捗状況</b>	成果目標(指標)		基準値(R3年度)	R4年度	R5年度	年度	後年度目標値(R6年度)
	教育旅行誘致件数(件)	目標	-	-	-		15
		実績	2	10	18		16
	成果目標(指標)		基準値(R3年度)	R4年度	R5年度	年度	後年度目標値(R6年度)
	人材育成(名) ※累計	目標	-	3	3		3
		実績	-	3	3		3
進捗状況説明	教育旅行の受入件数は後年度目標として掲げていた15件に対し、令和6年度に16件を達成し、後年度目標値も達成した。観光案内人の人材育成も当初3名の育成の目標達成することができた。						

取組の検証	成果目標に対する原因・要因分析	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>○教育旅行の受入件数が目標を上回った要因としては、歴史文化を活かした観光資源整備と、観光案内人の育成による受入体制の強化が効果的に機能した。</p> <p>○人材育成プログラムの内容を、高齢者が理解し易いように工夫したことで、受講者を効果的に育成することができた。</p>	<p>○村観光協会等も連携し、歴史文化を活かした観光プログラムなど新たなコンテンツも構築し、更なる観光振興を図る。</p> <p>○「語り継ぎ手」の育成プログラムや人材活用の継続体制を構築することで、観光案内人をさらに育成し、その活用も積極的に行っていく。</p>
<b>今後の取り組み方針</b>		
<p>○村観光協会等と連携し、歴史文化を活用した教育旅行プログラムの充実を図る。</p> <p>○観光案内人を活用した受入体制を維持・強化し、教育旅行の受入拡大に繋げる。</p> <p>○「語り継ぎ手」の育成プログラムを継続的に実施し、人材の安定的確保を行う。</p>		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	補助対象事業費	補助金充当額	市町村負担額	補助対象外経費
	56,057	56,057	44,845	11,212	0
<pre> graph LR     A[伊平屋村 56,057千円] --&gt; B[工事請負費 56,057千円]     B --&gt; C[株式会社 共洋土建 56,057千円]     subgraph Note     D[令和4年度 北緯27度線 モニュメント広場整備工事]     end     </pre>					

資金の流 点れ、 費目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	工事業業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	予算規模においては沖縄県土木建築部建築設計業務等積算基準に基づき積算したことから適性だったと考える。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	-
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について完成時の支出等に関する書類の検査確認をし、適性であった。